

泌尿器科レジデントマニュアル

郡 健二郎 監修

佐々木昌一, 戸澤啓一, 丸山哲史 編

＜書評者＞ 藤岡知昭 (岩手医科大学教授・泌尿器科学)

小生は、聖路加国際病院の卒後臨床研修に進みましたが、先輩のレジデントは、常に『ワシントン大学マニュアル (Manual of medical therapeutics 20th edition. Department of Medicine, Washington University School of Medicine)』を携帯・使用していました。例にもれず小生もその本を入手・愛用し、現在もボロボロの状態ですが本箱の片隅で健在です。この本には、泌尿器科に特化する記載はほとんどありませんが、泌尿器科の日常診療において遭遇する問題点の対処・解決に強力な手助けとなりました。すなわち、専門領域を超えて共通の課題に対して基盤となる知識、対処、救急処置が簡潔に記載されているのです。

今回、郡 健二郎教授監修の『泌尿器科レジデントマニュアル』の書評の依頼を受け、読み始めの第一印象は、先に述べた『ワシントン大学マニュアル』と同じ香りを感じました。本書では、各疾患ガイドラインやマニュアルを使用する場合にしばしば遭遇する弊害であると指摘されていた問題点、す

なわち、文字や図表のみを追い、その背景にある事柄を理解しないという点を危惧し、医師として必要な思考力、観察力、洞察力の養成について配慮するという意図をもって企画・編集されたことがわかります。また、泌尿器科領域の診療に関して、基礎知識から処置・トラブル対処法、検査法、症状・症候から診断へ、疾患、全身合併症と周術期管理、代表的手術と周術期管理、さらには泌尿器科に関わる緩和医療まで、整理された必要な項目について実践的かつ簡潔に記載しています。

また、特記すべきは付録の項目で、IPSS, OABSS, Partin ノモグラム, IIEF-5, DIC 診断基準, 心不全と呼吸器症状の分類, 腎機能低下時の薬剤投与量の調節, 水分・電解質・栄養素の一日必要量, 小児の標準身長・体重曲線, 小児の腎機能基準値および薬剤投与量調節, 輸血用血液製剤投与早見表, 出血許容量を求めるノモグラム, 日本人体表面積算出表, performance status, 改訂 長谷川式簡易知能評価スケール, 移植腎病理国際分類, 非観血的治療効果判定

基準, 感染症新法における感染症分類, 抗生物質の英語表記, 主な検査・処置・手術および DPC の保険点数, RECIST ガイドライン, 抗がん剤副作用判定基準, 死亡診断書の書き方と関連法規など, 病棟などの臨床現場でしばしば早見・確認したいと思われる事項を無駄なく選択しており, 実臨床に重宝するものと思います。

各項の執筆は、すべて名古屋市立大学大学院腎・泌尿器科学分野教室とその同門の皆さんであり、簡潔で無駄な記載がありません。総指揮官・郡教授の下に着実に確立された一本筋の通った泌尿器科診療体系を抵抗なく実感できます。泌尿器科の研修医はもちろん、泌尿器科を研修しなかった先生方や看護師・コメディカルの皆さんにも必須の知識・情報が濃縮されており、常に携帯し活用することを推奨します。

今年 (2011 年) 郡先生が会長を務められた第 99 回日本泌尿器科学会総会には、「めざせ！ 泌尿器科の星」という企画があり好評でした。本レジデントマニュアルは、「泌尿器科の星」になるために不可欠なツールだと思います。

●B6 変 頁 408 2011 年
定価 4,830 円
(本体 4,600 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01226-3]
医学書院 刊